

すごいオルタナティブ交通

DMVって？まちなか移動は電動キックボード？
乗ること自体がエンターテインメント

街中を軽快に疾走する電動キックボードの登場に、ラストワンマイルの新潮流を感じる昨今。移動することそのものを楽しみに変えるオルタナティブな交通はまだ他にも。マイクロから世界初まで、アイデアの実現や取り組みを紹介しよう。
写真／久保田敦（P.26～27）

ブーム到来の電動キックボード 実証実験で新たなルール

Luup

東京都・大阪府・京都府・神奈川県

これまではアクティビティ的なイメージが強かったキックボード。しかし電動キックボードの登場により、それは新たな交通手段となった。タイトなスカートやスーツでもOKなど洋服を選ばずに乗れ、小型なのに坂道も漕がずに楽々と進める快適さ。シェアリングサービスや観光地でのレンタルなどもあり、二次交通として身近な存在になってきている。しかし気軽な存在に見えるからこそ個人所有も増加し、違法な走行や事故も増えつつあるのが現状。利用者が増加していく中で、安全性についての検証も行われている。

Luupをはじめとする国内4社、

海外2社では、電動キックボードの適切な走行ルールの検討を進めるべく、マイクロモビリティ推進協議会に参画。経済産業省より新規事業特例として「車道+普通自転車専用通行帯をヘルメット着用任意で走行可能となる特例措置」が適用される実証実験の認可を受け、Luupでは今年4月より、東京都内6区、大阪で電動キックボードのシェアリングサービスを開始。10月からは京都と横浜も加わった。最高時速を従来の30kmから15kmに制限し、車道に加えて普通自転車専用通行帯（自転車レーン）の走行を可能とし、ヘルメットの着用が任意に（実証実験認定を

マイクロモビリティがすごい！

受けていない事業者や個人所有は除く）。また従来のレンタルや個人所有の場合の原動機付自転車免許ではなく、小型特殊、自動二輪、普通などの免許が必要。「サービス開始から2日間で新規登録が5000名以

上。マイクロモビリティとしてのニーズの高まりを感じられるスタートとなりました」（広報担当者）。実証実験期間は2022年7月まで延長され、普及・浸透に向けての検証が今も続いている。

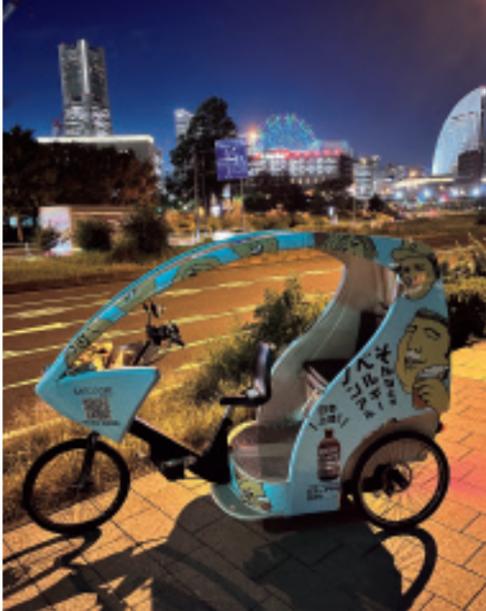
地元民にも愛用される 港町ヨコハマの二次交通

シクロポリタン横浜

神奈川県

シクロポリタンはフランス発祥のアシスト付三輪自転車タクシー。愛嬌のあるフォルムで、港町横浜に登場したのが2012年。「最初は地元の人には乗らないだろうと思っていました」と、運営するシクロポリタンジャパンの代表、小川泰生さん

（以下同）。ところがこの9年の間にすっかり定着し、今では利用者の半分を地元民が占める。社内で決めている営業エリアは京浜東北線より海側のMM（みなとみらい）地区や中華街がある観光地サイド。「家まで送って」、「病院までつけて」などの



シクロポリタン横浜

赤レンガ倉庫正面入口、山下公園中央入口、中華街大世界前で待機。

定員は大人2名+幼児1名くらいまで。

大人1名に付き、初乗り300円。以降は1ポイントごとに100円。横浜の名所を結んだ基本の運行ルートが設定されているので、メーターが付いてなくても料金がわかりやすい。赤レンガ倉庫から中華街までは初乗り300円+3ポイント(300円)=大人1名600円。

配車、予約、時間貸しにも対応

1回の利用距離は平均1~2km。導入開始から4カ月で、延べ約30万km走行されている

Luup

ポート数は東京400、大阪100、京都1、横浜8（%現在）。初乗り10分で110円。以降は1分あたり16.5円（実証実験特別価格）
利用には運転免許証登録と、走行ルールの確認テストの満点合格が必須。
対物賠償、対人賠償、利用者の怪我が対象となる保険に加入

Coming soon



飲んだビールをエネルギーに？ 乗合タクシー「ピアバイク」

オランダ発の愉快的な乗り物、ピアバイク。ドライバーを除く乗客は、ビールを飲みながらペダルを漕ぎ漕ぎ国内にある数台のうちの1台をシクロポリタンジャパンが運営。数年前よりイベントでは登場していたが、公道走行の認可を得てまもなく乗合タクシーとしてデビューする予定。乞うご期待。

リクエストも多く、その範囲内であればもちろん細かく対応する。料金は初乗りが300円（1~2分、約300m）で、以降1ポイント（200~300m）100円という低コスト。使い勝手がよく、乗っていて快適で、そして何より楽しい。自分の住む町に走っていてくれたら、と思う1台だ。これまで日本各地で実証実験を行い、車体の販売も行っているが、通年営業を行っているのはこの横浜のみ。観光地や港町は他にもあるのに、この地でびたりとはまったその理由はなんだろう。

この海に面したMM地区はショッピングエリアや遊園地など様々なものが混在し、移動しながらも見ることがたくさんあるが、タクシーがあまり走っていないという。そして中華街まで歩いて行くこともできるが、それなりに疲れる距離でもある。そんな微妙な距離を楽しんで移動したい

時に、本当に便利な乗り物がシクロポリタン。しかし定着した理由はそれだけではない。低価格でありながら、観光客が喜ばずにいられない横浜の「生の情報」も乗せて走っているからだ。

「満足して下さるお客さまが多い一方で、日本人の方からチップをいただくことも多くあります。ガイドをしながら走りますが、目的地よりも手前で降りてしまうという方はほとんどなく、もうちょっと行つてほしいとか、帰日も乗るので待っていてと言われることもあります」。

これまでドライバー経験者からテレビのアナウンサーが2名誕生しているというが、運び手の引き出しの多さやコミュニケーション力も大きな魅力。コロナ禍以前は年々観光客が増加するこのエリアで、需要に供給が追いつかず、ドライバー不足が課題となっていたのもうなずける。

世界初がすごい!

ある時はバス、またある時は列車 1台2役。ハイブリッドなDMV

阿佐海岸鉄道

徳島県・高知県

既存のレールを活かし、
観光で小さな地域を盛り上げる

徳島県の最南端にある海陽町と、高知県の最東端にある東洋町。人口合わせて1万2000人弱という隣接する2つの小さな町が、DMV（デュアル・モード・ビークル）とい

う世界初の試みに盛り上がりを見せている。

DMVは一見するとかわいいボンネットバス。しかし、乗客を乗せたまま変身を行うモードチェンジにより、そのまま線路の走行もできるというハイブリッドな乗り物。つまり既存のレールを活かしながら、沿線

阿佐海岸鉄道

運行ルートはバスモードの阿波海南文化村→鉄道区間の阿波海南～甲浦→海の駅東洋町、道の駅穴喰温泉を基本に、土日祝は室戸方面の観光スポットへも1往復運行。定員は座席18名、立ち席3名の計21名予定。料金は阿波海南文化村～道の駅穴喰温泉片道で大人800円



高架区間から海を望む。時速60kmを予定しているが、通常の列車に比べて窓が大きいのでスピード感がある。道路渋滞がないことも運行する上で大切な要素



車体は鮮やかな3色。真っ赤なボディは四国の英雄・坂本龍馬と南国土佐に降り注ぐ太陽、緑は阿波の名産・すだち、青は太平洋の豪快な波がモチーフ

から離れた観光スポットにもそのままアクセスできてしまう。まるで一次交通と二次交通のいいところ取りのよう。予定ではこの夏運行開始だったが、鉄車輪のアーム強度について、安全性の再検証を行うために延期となった。しかし本誌が発行される12月には、運行が開始される予定となっている（11/15現在）。

DMVの技術は利用客の少ないローカル線対策としてJR北海道が開発し、2004年に走行試験を開始。2008年には北海道洞爺湖サミットに合わせてデモ走行も行い、世界から注目を集めた。その後、諸般の事情によりJR北海道は導入を断念するが、阿佐海岸鉄道では2011年より実証実験をスタート。10年の時を経て、ついに運行を開始することになる。

「この小さな地域で、世界初に挑むということはなかなかできない経験だと思っています。阿佐海岸鉄道の



列車モードでは鉄道の基準で走行するが、アクセルやブレーキなどは足で操作。ハンドルは固定



乗車扉は左側のみ。席数が限られているので開業直後は予約制になる予定



扉が開くとステップが出る

えてのDMV。ここでしか体験できない乗り物を楽しみにきてもらおうという意気込みで、様々な条件をクリア。赤、青、緑の3台が、開業するその日を今か今かと待っているところだ。

DMVの面白さを体感できる モードチェンジとは?

見た目の通りDMVはマイクロバスをベースに改造された車体で、道路走行中には鉄車輪を忍ばせている。鉄道モードで走るのは阿波海南駅から甲浦駅までの約10km、時間にして19分ほど。しかし列車とバスの2つが合体したハイブリッドな乗り物だけに、運転には鉄道の「甲種内燃車運転免許」と自動車の「中型二種運転免許」の2種類が必要。それにより、運転手1名でのシームレスな走



上/モードインターチェンジに突入
右/定位置で停止し、バスから鉄道モードへ変身。車内には、地元高校生が海南太鼓で演奏するオリジナル曲が流れる

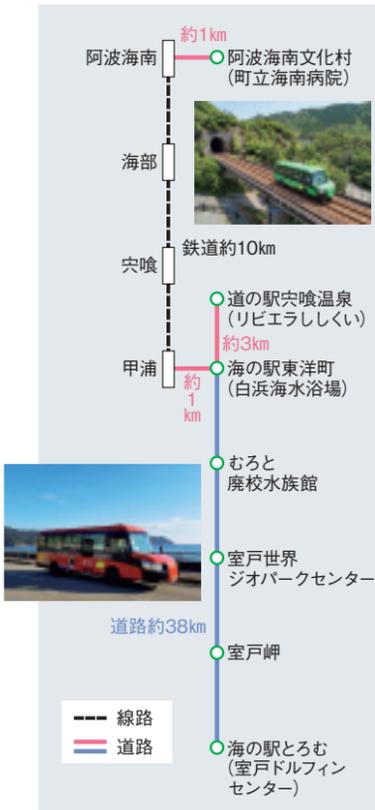


横から 見ると



横から見るとこんな感じ

阿佐海岸鉄道 運行ルート



接続場所が不可欠。阿佐東線は高架を走っており、海部駅と穴喰駅では線路から道路へ降りることができない。そこでJR牟岐線から阿波海南―海部間の譲渡を受けることで、阿波海南駅にモードインターチェンジを設けることができた。

その他にもDMV運行には数々の規制がある。列車モードの区間をDMV専用区間にする。また、連結走行や、線路上でのすれ違い走行は不可など。

「分岐を外したり、ダイヤの組み方を変えました。実証実験は全国様々な地域で行っていましたが、採用し、実現に向けて取り組んでいるのはここだけです。世界初の第一歩だけに、この後で改良されていく部分もあると思いますが、ハードルは高いです。でも鉄道区間が10kmだからこ



上/阿波海南文化村。駐車を増設し、シェアサイクルを整備。左/バス停には楽しい自販機も



そでできているのだと思います。無事、運行をスタートさせ、世界初をフックに話題をさらし、継続的に集客する仕組みを作っていく。バスモード区間では、周辺観光スポットに加え、土日祝のみ室戸岬まで38km延長。

「鉄道ファンは元より、新しいものや珍しいもの好き、田舎でゆっくりしたいという人たちにもきて欲しい。目標はこれまでの2倍以上の集客です」。

演出がすごい!

乗車したその時から降りるまで
気分はVIP! なSP風タクシー

三和交通
神奈川県・東京都・埼玉県

私たちがタクシーに期待するものはなにか。快適で安心な移動。観光タクシーなら、さすが地元と唸らせるようなきめ細かいガイド……。そんなありきたりの想像力をさらりと超えたタクシーが存在する。それが

三和交通のSP風タクシーだ。通常の料金に3060円をプラスするだけで、まるでVIPのような気分。くすぐったくなるような守られ感、一般人ではなかなか体験できない世界だろう。2018年にスタートし、



依頼すれば店舗などの中までも付き添ってくれる。これは結婚式に向かう花嫁の送迎もぜひ行ってほしい



耳にはどこにも繋がっていないイヤホン装着



すべてはお客さまをガードするために



NINJA DE TAXI だけに言葉使いは基本的に「忍者用語」。折り紙の手裏剣を携帯。祖父から孫への誕生日祝いとして利用され喜ばれたこともあるそう

三和交通

SP風タクシー、NINJA DE TAXI (忍者でタクシー) ともに、指定料金として別途3060円が必要

そのユニークな発想がSNSでも話題に。会社の宴会などで、主賓登場の際のサプライズ的に使われることもあるという。
エリアを選ばない奇想天外なアイデアに、やはり顧客獲得がその狙いかと思いきや、「お客さまには接客によってご支持をいただければと思っています。企画ものについては、新卒乗務社員の採用活動の一環として行っているのです」(広報 小関正和さん。以下同)。タクシー業界の乗務社員平均年齢は50代後半で、10年後には定年になってしまう。そのため乗務社員の獲得は多くのタクシー会社にとって切実な問題となっている。三和交通ではその他にも「NINJA DE TAXI (忍者でタクシー)」などのユニークな

サービスや、「タクシーで行く、心霊スポット巡礼ツアー2021」を催行。その企画力、話題作りが功を奏して乗務社員の採用人数は、10年前に比べて3倍になった。日頃は通常業務をこなしている乗務社員のみならず、演技力の必要なSP要請に對して戦々恐々とした気持ちになっているのではないかと思っていたが、ただの取り越し苦労。「各営業所に最低1名はSP対応できる乗務社員がいますが、それぞれかなりやる気です」とのこと。2018年のスタート時に、SPや忍者候補たちを集めて講習会を実施。そこから先は営業所ごとに、忍者ならボウジングやバク転などの技、セリフ回しなどオリジナル路線を展開。乗務社員が心底なりきっていれば、乗る方が楽しみめにはずはない。ちなみに写真の「まるでSP」なドライバーは、かつては乗務を担当していたという広報の小関さんである。

番外編もすごい!

船でしか行けない半島の先にある
予約殺到の秘境料理店
魚山人

佐賀県

目的地は安近短が便利と言っても、移動手段も旅の楽しみのひとつ。それが離島というわけでもないのに「専用の船でしか行けない」となるとその不便さが特別感となり、否が応でもテンションが上がるというものの。そんな佐賀県玄海町の料理店「魚山人」は、国内外問わず多くの人を魅了している。土日ともなれば3カ月前まで予約がいっぱいだ。もちろん船に乗って訪れてまで味わいたいと思わせる料理が、そこには待つ

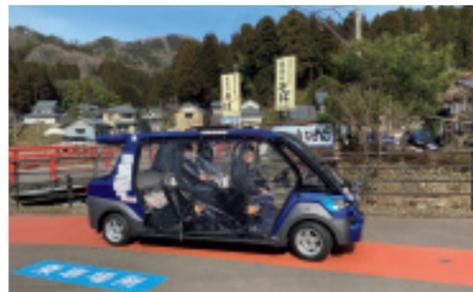
ているからだ。

福岡空港から車で1時間30分、仮屋漁港から魚山人までは、迎えに来てくれた店主である吉田博さんの船に乗り10分ほどで到着。店がある高岩地区に住んでいるのは吉田さん夫婦と長男家族のみ。仮屋湾に突き出た半島にあるが道路は通っておらず、ここまでの交通手段はこの船しかない。料理人や漁師などの経歴を持つ吉田さんは、自分で獲った魚で料理を提供し、多くの人を喜ばせたいと13年前にこの地に店をオープン。昼と夜、1日で2組だけがその味を堪能することができる。

網を張って獲れた地魚を使うため、魚次第で日々メニューが変わる。12品で1人前5000円。人々はその衝撃のコストパフォーマンスに圧倒され、再び吉田さん操縦の船に乗り、秘境から現実へ戻っていくことになるのであった。

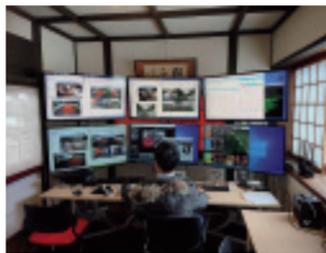
魚山人

佐賀県東松浦郡玄海町仮屋高岩1660-3
1日昼1組、夜1組のみ。要予約で基本4名~受付



車両にAIカメラや3D-LiDAR、遠隔監視操作の通信アンテナ等を装備

1人の遠隔管理者がここから3台の自動走行車両を運行する



ZEN drive

永平寺町総合政策課
大人100円 中学生以下50円
平日4往復 休日5往復

Column / 自動運転はここまで進んでいる

無人自動走行サービスカーが
永平寺町(福井県)を走行中

少し先の話のように感じられる自動運転。しかし一般車に限らずタクシーや船など、様々な乗り物が実証実験を実施中。個人が所有するオーナーカーだけではなく、二次交通としての役割を持つサービスカーの技術も着実に前進。遠くない未来に、SFのような交通網がじわじわと登場しそうな気配がある。
福井県永平寺町では今年3月25日より、国内では初めてのレベル3の認可を受けた遠隔型自動運転システムによる無人移動運転サービスの本格運行を開始した。レベル3とは「条件付運転自動化」のことで、「ZEN drive」と名付けられた4~5人乗りの車両には、ドライバ

ーは乗車していない。旧京福永平寺跡地である「永平寺参道」の約6kmを、最大時速12kmで走行。ゴルフカートを改良した車体が乗客を乗せ、道路に埋め込んだ電磁誘導線をセンサーで感知して運行する仕組みになっている。
地域住民の利用を基本として始まったサービスだが、この乗車を目的に訪れる観光客も多いという。地元の人々の利用では高齢者の他に、小学生が下校時に乗車することもある。また、住宅地などもっと細かいところまで走ってきてほしいという意見が多数寄せられており、ニーズに応えるために地域での意見交換を行っている。